

平成 26 年 5 月 10 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320184

研究課題名(和文) 言語と物質性からみた地理的モダニティの構築に関する地理学的研究

研究課題名(英文) Languages, Materiality, and the Construction of Geographical Modernities

研究代表者

島津 俊之 (Shimazu, Toshiyuki)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：60216075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円、(間接経費) 4,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代地理学的な諸概念や諸言説がいかに近代的諸空間の構築に役立ってきたか、また、逆に近代的諸空間がいかに近代地理学的な諸概念や諸言説の構築に作用してきたかを解明した。具体的には、近代地理学と近代空間の双方を、「地理的モダニティ」という新しい概念のもとで統合的に理解し、それらの動態を言語と物質性の相互作用の側面から把握した。研究成果は、国内における研究集会の開催や、国際地理学連合京都国際地理学会議におけるセッションの開催を経て、和文報告書2冊と英文報告書1冊として結実した。

研究成果の概要(英文)：Our research group studied how modern geographical concepts and discourses have contributed to the construction of modern geographical spaces and how those modern geographical spaces have in turn contributed to the formation of modern geographical concepts and discourses. In particular, we proposed to synthesize modern geographical discourses and modern geographical spaces into a new integrating concept of "geographical modernities." We investigated the construction of geographical modernities in terms of the mutual interconnection between languages and materiality. As research output we launched three research reports, two of which are in Japanese and one in English.

研究分野：地理学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：地理学史 言語 物質性 モダニティ 心象地理 地理空間 表象 場所

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、英語圏を知的発信源とする、地理学史研究の「二度の転回」を初発のバックグラウンドとしてなされた。一度目は、1970年代後半以降の地理学史研究において隆盛をみたコンテクスチュアル・アプローチと、それに伴うアカデミア外部への注目を前史とする「批判論的転回」であり、1990年代初頭に生じた。これは言語論的転回や構築主義、批判理論等を哲学的背景とし、何が地理学として構築されてきたかをアカデミア・官庁・民間に跨って探究するものであった。そこでは、学史叙述への研究者言語の介入に自覚的な立場から、近代の国民国家形成や帝国主義との複雑な関係性が問題化された。二度目は、批判論的転回の部分的帰結として1990年代半ばに生じた「空間論的転回」である。これはポストモダニズムを哲学的背景とし、地理思想・実践や地理的知識の空間的拘束性や空間的差異を問題化するものであった。

これらに加え、本研究の次発のバックグラウンドをなしたのが、やはり英語圏を発信源とする社会・文化地理学の「物質論的転回」であった。これは1990年代の文化論的転回における言語や表象への傾斜の反動として2000年代に生じ、そこでは社会・文化事象の物質性とその役割が相関論的に捉え直された。この流れは、地理学史研究を、物質性をもつ地図や写真等も含めつつ上記の「二度の転回」の文脈で再検討しようとする本研究にとって、無視できない内容を有していた。

さらに、本研究の重要な実践的ルーツとして、1980年の国際地理学連合(IGU)地理思想史コミッションの京都集会在が挙げられる。そこでは“The Languages of Geography and of Geographers”をテーマとし、テキスト・地図・数式等を地理的知識が伝達される言語媒体として等置し、それらの階層的かつ空間的な差異が議論された。これは本研究の淵源というべき科研グループにより準備され、後の空間論的転回や物質論的転回の萌芽を潜在的に宿す画期的集会であった。

本研究は、かかる複数のルーツやバックグラウンドの上に立ち、言語と物質性の相互連関という観点から、近代地理学と近代空間の構築を相関論的に捉えることをめざした。

### 2. 研究の目的

本研究は、近代の地理思想・実践とそれらの物質的側面を「地理的モダニティ」という新概念で包摂し、それらの構築・受容過程の一般的特性と差異を言語と物質性の相互連関の観点から解明し、成果を国際的に発信することを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究では、理論・方法論系研究班、言説・図像系研究班、実践・空間系研究班の三班で研究課題を分担した。個々の研究者は、文献・統計・地図・写真・地物・肉声といった

諸資料を国内外で収集し、それらの読解・分析、および科研グループの研究集会を通じて研究目的の達成をめざした。科研グループの研究集会は以下の通り開催された。平成23年9月24日~26日、公立学校共済組合保養所豊泉荘(別府市)、5名発表、平成24年3月21日~22日、てんぶす那覇(那覇市)、11名発表、平成24年11月3日~4日、公立学校共済組合奈良宿泊所春日野荘(奈良市)、5名発表、平成25年12月27~28日、休暇村紀州加太(和歌山市)、5名発表。

### 4. 研究成果

地理的モダニティの構築の諸相が、言語と物質性の相互連関の観点から多面的に明らかにされ、研究成果の国際的な発信がなされた。科研メンバーが参加・発表した主な国際学会は以下の通りである。平成23年8月16~20日、第6回批判地理学国際会議(ドイツ・フランクフルト)、6名発表、平成24年2月13~16日、第6回東アジアオルタナティブ地理学地域会議(マレーシア・スランゴール州)、3名発表、平成24年8月6~10日、第15回歴史地理学国際会議(チェコ・プラハ)、4名発表、平成24年8月26~30日、第32回国際地理学会議(ドイツ・ケルン)、7名発表、平成25年8月4~9日、京都国際地理学会議、5名発表。これらのうちに関しては、IGU 地理学史コミッション及び人文地理学会地理思想研究部会と連携しつつ、“Languages, Materiality, and the Construction of Geographical Modernities”と題するセッションを開催した。

出版物に関しては、和文報告書として、平成25年3月に『空間・社会・地理思想』第16号を刊行した(129頁)。これには論文3篇、研究ノート1篇、翻訳3篇が掲載され、うち論文2篇、研究ノート1篇、翻訳2篇が科研メンバーによる寄稿であった。平成26年3月には『空間・社会・地理思想』第17号を刊行した(82頁)。これには論文3篇、翻訳1篇、特別寄稿1篇が掲載され、うち論文3篇、翻訳1篇が科研メンバーの寄稿である。また、英文報告書として、同じく平成26年3月に“Languages, Materiality, and the Construction of Geographical Modernities: Japanese Contributions to the History of Geographical Thought (10)”を刊行した(118頁)。全て科研メンバーの手になる、イントロダクションを含めて8篇の論文が掲載されている。

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計43件)

1) YAMAZAKI, Takashi et al., Reading John Agnew and Luca Muscara's Making Political Geography: Making Political Geography, 2nd ed., John Agnew, Luca Muscara (2012), Political Geography, 査読無, 38, 2014, 46-56

- 2) 米家泰作, 近代林学と国土の植生管理 - 本多静六の「日本森林植物帯論」をめぐって, 空間・社会・地理思想, 査読無, 17, 2014, 3-18
- 3) 中島弘二, 泥, 石, 身体 - 身体と物質性をめぐるポリテクス, 空間・社会・地理思想, 査読無, 17, 2014, 19-32
- 4) 水内俊雄, 野外調査実習から PBL 事始め, 空間・社会・地理思想, 査読無, 17, 2014, 33-43
- 5) 大城直樹, 「街歩き」の詩学に向けて: 前提と文脈, 駿台史学, 査読有, 151, 2014, 137-146
- 6) 島津俊之, 高野山にとって世界遺産とは何か, 地理, 査読無, 58-11, 2013, 53-63
- 7) 橋 セツ, 英国農業革命期の文化遺産としてのモデル農場の展示と教育的ツーリズム - 東イングランドのウィンポール・ホールとナショナル・トラストの展示・管理をめぐって, 神戸山手大学紀要, 査読無, 15, 2013, 13-28
- 8) TSUTSUMI Kenji, Mountainous Areas in Japan and Forest Town Management Model (FTMM), Social Capital and Development Trends in Rural Areas, 査読有, 8, 2013, 245-254
- 9) 島津俊之, 田山花袋の紀行文論再考, 空間・社会・地理思想, 査読無, 16, 2013, 47-66
- 10) KOMIIE Taisaku et al., Historical Geography in Japan since 1980, Japanese Journal of Human Geography, 査読有, 65-1, 2013, 1-28
- 11) 遠城明雄, 明治期の地方都市における選挙と地域社会, 史淵, 査読無, 150, 2013, 117-158
- 12) 源 昌久, 修技所における教科書『兵要地学教程』に関する一研究 - 書誌学的調査, 空間・社会・地理思想, 査読無, 16, 2013, 67-74
- 13) SHIMAZU Toshiyuki, FUKUDA Tamami, OSHIRO Naoki, Imported Scholarship or Indigenous Development? Japanese Contributions to the History of Geographical Thought and Social and Cultural Geography since the Late 1970s, Japanese Journal of Human Geography, 査読有, 64-6, 2012, 474-496
- 14) 上杉和央, 沖縄県南城市における戦没者慰霊 - 旧玉城村・知念村域を中心に, 京都府立大学学術報告, 査読無, 64, 2012, 97-118
- 15) 橋 セツ, 近代英国のガーデニングとモラル - ジョン・クローディアス・ラウドンとジェーン・ラウドン夫妻の思想と実践からの考察, 神戸山手大学紀要, 査読無, 14, 2012, 151-166
- 16) YAMAZAKI Takashi, TAKAGI Akihiko et al., Reemerging Political Geography in Japan, Japanese Journal of Human Geography, 査読有, 64-6, 2012, 72-94
- 17) 水内俊雄, 大阪の困窮化の歴史的背景と西成区への貧困集中の実態, 貧困研究, 査読無, 9, 2012, 5-14
- 18) 水内俊雄, 生活保護下の住宅市場の実態と住宅供給の社会化へ可能性, ホームレスと社会, 査読無, 7, 2012, 54-59
- 19) 水内俊雄, 「公都」大阪の制度疲労と, 新たな「民都」の創造, 現代思想, 査読無, 40-6, 2012, 238-245
- 20) 水内俊雄, 大阪市西成区あいりん地域の施策の系譜と現状, 部落解放研究, 査読無, 196, 2012, 89-103
- 21) 山崎孝史, スケール/リスケーリングの地理学と日本における実証研究の可能性, 地域社会学会年報, 査読無, 24, 2012, 55-71
- 22) 島津俊之, 地理学者としての高島北海, 空間・社会・地理思想, 査読無, 15, 2012, 51-75
- 23) 大城直樹, 場所の系譜学再考 - あるいは風景の別の読み方について, 歴史地理学, 査読有, 54-1, 2012, 30-38
- 24) 米家泰作, 「近代」概念の空間的含意をめぐって - モダン・ヒストリカル・ジオグラフィの視座と展望, 歴史地理学, 査読有, 54-1, 2012, 68-83
- 25) 森 正人, 巡礼の近代性 - 西国三十三箇所巡礼競争, 人文論叢, 査読無, 29, 2012, 45-55
- 26) TSUTSUMI Kenji, Formation of the Tourist Industry at the Core of a Shrine through the Modern and Present Eras: Social Capital and Agent around Dazaifu, Social Capital and Development Trends in Rural Areas, 査読有, 7, 2012, 69-85
- 27) TSUTSUMI Kenji, Interscale and Interlevel Problems of Research on Social Capital in Rural Japan, Social Capital and Development Trends in Rural Areas, 査読有, 7, 2012, 241-256
- 28) 水内俊雄, 脱ホームレス支援から学ぶ日本型「社会住宅」の現状とその可能性 - ポストホームレス自立支援法と住宅のナショナルミニマム, ホームレスと社会, 査読無, 5, 2012, 63-72
- 29) 源 昌久, 陸軍士官学校における科目「兵要地学」に関する一研究 - 明治期を中心に, 淑徳大学研究紀要, 査読無, 46, 2012, 67-85
- 30) 上杉和央, 軍港都市と近代の文化遺産 - 舞鶴の「赤れんが」, 京都府立大学学術報告(人文), 査読無, 63, 2011, 1-18
- 31) 大城直樹, 東アジア地域における琉球=沖縄のポジションナリティの変化について, Cultural Interaction Studies of Sea Port Cities (Korea Maritime University), 査読有, 5, 2011, 87-108
- 32) 星 珠枝・橋 セツ, 園芸家半田たきの明治後期の英国留学 - 家族史とライフヒス

- トリー/ライフジオグラフィーの視点から、神戸山手大学紀要，査読無，13，2011，79-111
- 33) 高木彰彦，地理と政治 - これまでの政治地理学研究を振り返って，立命館地理学，査読有，23，2011，1-10
- 34) 堤 研二，地域科学，新経済地理学と日本の経済地理学に関する試論的考察 - ERS50周年と日本の経済地理学，待兼山論叢(日本学篇)，査読無，45，2011，1-25
- 35) 水内俊雄，ヴァルネラブルな人々への支援ともうひとつのインナーシティ再生，都市計画，査読無，2011，292，35-38
- 36) 水内俊雄，社会を見据えたフィールドワークのすすめ - 独創的で先端的な都市社会地理学の追究，月刊地球，査読無，33-11，2011，696-701
- 37) 山崎孝史，知事・市長意見交換会の言説分析からみた大阪都構想，市政研究，査読無，173，2011，84-94
- [学会発表](計 80 件)
- 1) SHIMAZU Toshiyuki, Installing Geography in the Open Air: The Emergence of the Statues of Geographers in Late Nineteenth-Century Belgium, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月6日，国立京都国際会館
- 2) NAKASHIMA Koji, Geographies of Nature and Neil Smith: Toward Alternative Productions of Nature, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月5日，国立京都国際会館
- 3) ONJO Akio, Eating Rice: Body Politics in Modern Japanese City, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月6日，国立京都国際会館
- 4) TACHIBANA Setsu, Travel, Cross-cultural Knowledge, and Female Horticultural Education: Japanese Gardens in Early Twentieth Century Britain, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月6日，国立京都国際会館
- 5) FUKUDA Tamami, Between Home and Homeland: Movements to Improve People's Ways of Living and "Kyodo" (Homeland) Education in Early Twentieth-century Japan, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月6日，国立京都国際会館
- 6) OSHIRO Naoki, Okinawan Folk Geographies in Modernity: Some Aspects of Articulation, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月6日，国立京都国際会館
- 7) ARAMATA Miyo, "Social Mix" and Muslim Migrants: Inclusion and Exclusion in the Neighborhood of the Goutte d'Or of Paris, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月6日，国立京都国際会館
- 8) YAMAGAMI Tatsuya, Preliminary Analyses on the Spatial Shrinking of Keihanshin Metropolitan Area: Based on the Commuting Flows and the Population Redistribution, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月7日，国立京都国際会館
- 9) TSUTSUMI Kenji, Forestry Revitalization and Regional Marginality at Mountainous Areas in Japan, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月6日，国立京都国際会館
- 10) MORI Masato, Visuality of Nature, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月5日，国立京都国際会館
- 11) YAMAZAKI Takashi, Militarization and De-militarization of Base Towns in Okinawa, International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月7日，国立京都国際会館
- 12) ARAMATA Miyo, Colonial Heritage and Tourism: Restructuring Memories of French Rule in Casablanca, 15th International Conference of Historical Geographers, 2012年8月9日，Charles University, Prague
- 13) OSHIRO Naoki, Poetics of Signs: Reading "Feng-shui" (Geomancy) Landscapes in Ryukyu-Okinawa Islands, 32nd International Geographical Congress, 2012年8月27日，University of Cologne
- 14) TACHIBANA Setsu, Creating Modern Homes and Gardens in Japan: Yaezo Hashimoto's Horticultural Challenges, Enterprises and Dreams in Japanese Kansai-area Urban Modernity, 15th International Conference of Historical Geographers, 2012年8月9日，Charles University, Prague
- 15) FUKUDA Tamami, Institutionalization of Landscape in Japan: Between Academism and Social Institutions, 32nd International Geographical Congress, 2012年8月27日，University of Cologne
- 16) NAKASHIMA Koji, Critical Inquiry into National Environmentalism in Modern Japan, 32nd International Geographical Congress, 2012年8月27日，University of Cologne
- 17) MIZUUCHI Toshio, An Alternative

- Approach toward Inner City Regeneration and Its Possibilities for a Practical Urban Utopianism, International Workshop on Urban Utopianism, 2012年5月14日, Hong Kong Baptist University
- 18) YAMAZAKI Takashi, Japan's Geopolitical Vision and Practices on the Indian Ocean, 22nd International Political Science Association World Congress, 2012年7月12日, Universidad Complutense de Madrid at the Moncloa Campus, Spain
- 19) SHIMAZU Toshiyuki, Edmund Naumann as Geographer: Neglected Aspects of the German Father of Japanese Geology, 32nd International Geographical Congress, 2012年8月27日, University of Cologne
- 20) MIZUUCHI Toshio, The New Housing Provision for Low-income Earner as a Japanese Style of "Social Housing," 6th East Asian Regional Conference on Alternative Geographies, 2012年2月15日, National University of Malaysia
- 21) YAMAZAKI Takashi, Space, Subject, and Political Behavior at Border: A Case Study of Okinawa, Japan, Urban East Asia: Comparative Perspectives, Osaka City University Exchange Symposium, 2012年3月9日, The Center for East Asian and Pacific Studies, University of Illinois at Urbana-Champaign
- 22) SHIMAZU Toshiyuki, From Topophilia to Imperial Patriotism: The Homeland Education Movement in Wartime Japan, 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日, Goethe University Frankfurt am Main
- 23) OSHIRO Naoki, Searching Okinawan Identity in the Era of New Geopolitics in the East Asia, 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月19日, Goethe University Frankfurt am Main
- 24) TACHIBANA Setsu, Nakanome Orchard and Garden in Mizusawa: Horticulturist, Taki Handa's Cross-cultural Practice, Knowledge and Imaginings in Rural Japan, Annual International Conference of Royal Geographical Society (with the Institute of British Geographers), 2011年8月31日, Royal Geographical Society
- 25) FUKUDA Tamami, Teaching Critical Geography in Neoliberal Times, 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月18日, Goethe University Frankfurt am Main
- 26) MORI Masato, Nationhood and Biopolitics in the Postwar Japan, 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日, Goethe

- University Frankfurt am Main
- 27) TAKAGI Akihiko, Japanese Universities in Crisis, 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月18日, Goethe University Frankfurt am Main
- 28) TSUTSUMI Kenji, Regional Science and New Economic Geography in the Academia of Japanese Economic Geography, 3rd Global Conference on Economic Geography, 2011年6月30日, Coex, Seoul
- 29) NAKASHIMA Koji, Re-appropriation of Nature in the Grassroots Antiwar Movement: Towards Alternative Bio-politics, 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日, Goethe University Frankfurt am Main

〔図書〕(計41件)

- 1) SHIMAZU Toshiyuki(ed.), Department of Geography, Wakayama University, Languages, Materiality, and the Construction of Geographical Modernities: Japanese Contributions to the History of Geographical Thought (10), 2014, 118
- 2) SHIMAZU Toshiyuki(ed.), Department of Geography, Wakayama University, The World Heritage Site of Koyasan: 1200 Years of a Buddhist Temple Complex (Field Trip Guide on Occasion of the IGU Kyoto Regional Conference, August 10-11, 2013), 2013, 33
- 3) 人文地理学会(編), 水内俊雄ほか(著), 丸善出版, 人文地理学事典, 2013, 761
- 4) 福岡市史編纂委員会(編), 遠城明雄ほか(著), 福岡市, 新修福岡市史特別編 福岡城 築城から現在まで, 2013, 335
- 5) 池谷和信(編), 橘 セツほか(著), 海青社, ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第2巻 生き物文化の地理学, 2013, 374
- 6) 森 正人, 筑摩書房, ハゲに悩む - 劣等感の社会史, 2013, 224
- 7) 山崎孝史, ナカニシヤ出版, 政治・空間・場所 - 「政治の地理学」にむけて[改訂版], 2013, 231
- 8) 浅野敏久・中島弘二(編), 海青社, ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第5巻 自然の社会地理, 2013, 315
- 9) 福間良明・山口誠・吉村和真(編), 上杉和央ほか(著), 青弓社, 複数の「ヒロシマ」 - 記憶の戦後史とメディアの力学, 2012, 394
- 10) 岡崎 敦・岡野 潔(編), 遠城明雄ほか(著), 九州大学出版会, テクストの誘惑 - フィロロジの射程, 2012, 227
- 11) 野澤秀樹ほか(編), 高木彰彦・遠城明雄・中島弘二ほか(著), 朝倉書店, 日本の地誌 10 九州・沖縄, 2012, 672
- 12) 上杉和央(編), 山神達也ほか(著), 清

文堂出版, 軍港都市史研究 - 景観編, 2012, 450

- 13) 杉浦芳夫(編), 福田珠己ほか(著), 朝倉書店, 地球環境の地理学, 2012, 192
- 14) 荒又美陽, 明石書店, パリ神話と都市景観 - マレ保全地区における浄化と排除の論理, 2011, 246
- 15) 吉原直樹・斉藤日出治(編), 大城直樹ほか(著), 東信堂, モダニティと空間の物語, 2011, 324
- 16) 中俣 均(編), 大城直樹・森 正人ほか(著), 朝倉書店, 空間の文化地理, 2011, 176
- 17) 阿部和俊(編), 水内俊雄ほか(著), 古今書院, 日本の都市地理学 50 年, 2011, 336
- 18) Kirsch, S. and Flint, C.(eds.), YAMAZAKI Takashi et al., Ashgate, Reconstructing Conflict: Integrating War and Post-War Geographies, 2011, 330

〔その他〕

- 1) 和文報告書『空間・社会・地理思想』, 第16号(2013年), 第17号(2014年)のPDF <http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/ja/pub.html>
- 2) 英文報告書“Languages, Materiality, and the Construction of Geographical Modernities”(2014年)のPDF [http://www.cr-assist.co.jp/gt/gt\\_vol10.pdf](http://www.cr-assist.co.jp/gt/gt_vol10.pdf)

6. 研究組織

(1)研究代表者

島津 俊之 (SHIMAZU, Toshiyuki)  
和歌山大学・教育学部・教授  
研究者番号: 60216075

(2)研究分担者

大城 直樹 (OSHIRO, Naoki)  
明治大学・文学部・教授  
研究者番号: 00274407

米家 泰作 (KOMEIE, Taisaku)  
京都大学・文学研究科・准教授  
研究者番号: 10315864

森 正人 (MORI, Masato)  
三重大学・人文学部・准教授  
研究者番号: 10372541

荒又 美陽 (ARAMATA, Miyo)  
恵泉女学園大学・人文学部・准教授  
研究者番号: 60409810

上杉 和央 (UESUGI, Kazuhiro)  
京都府立大学・文学部・准教授  
研究者番号: 70379030

橘 セツ (TACHIBANA, Setsu)  
神戸山手大学・現代社会学部・教授  
研究者番号: 70441409

福田 珠己 (FUKUDA, Tamami)  
大阪府立大学・人間社会学部・教授  
研究者番号: 80285311

(3)連携研究者

遠城 明雄 (ONJO, Akio)  
九州大学・人文科学研究院・教授  
研究者番号: 00243866

高木 彰彦 (TAKAGI, Akihiko)  
九州大学・人文科学研究院・教授  
研究者番号: 90197054

堤 研二 (TSUTSUMI, Kenji)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号: 20188593

中島 弘二 (NAKASHIMA, Koji)  
金沢大学・人間科学系・准教授  
研究者番号: 90217703

水内 俊雄 (MIZUUCHI, Toshio)  
大阪市立大学・都市研究プラザ・教授  
研究者番号: 60181880

水岡 不二雄 (MIZUOKA, Fujio)  
一橋大学・経済学研究科・教授  
研究者番号: 30199989

源 昌久 (MINAMOTO, Shokyu)  
淑徳大学・総合福祉学部・教授  
研究者番号: 80104826

山崎 孝史 (YAMAZAKI, Takashi)  
大阪市立大学・文学研究科・教授  
研究者番号: 10230400

山神 達也 (YAMAGAMI, Tatsuya)  
和歌山大学・教育学部・准教授  
研究者番号: 00399750